



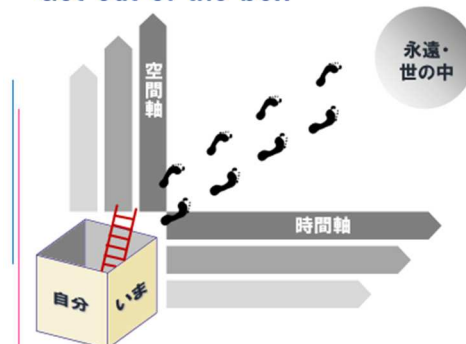
## ヤング・アダルト時代をどう生きるか



寄稿：岡本 和久

今の世界を見ていると多くの人の意識が小さな箱に閉じこもっているように見えます。それが非常に多くの問題の根源になっています。ヤング・アダルトのみなさんにはその箱からでて永遠・世の中という広い視野を持つて欲しいのです。

### Get out of the box



<まず、人生の目的を考える>

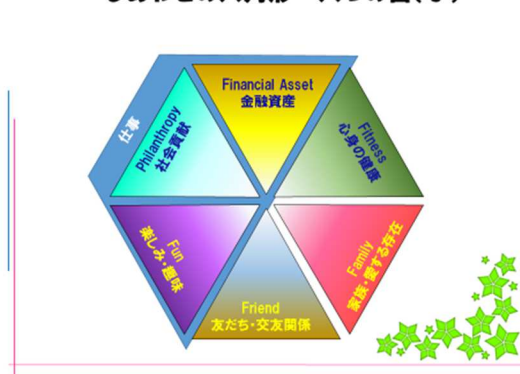
最初に考えてみて下さい。皆さんの人生の目的って一体何でしょうか。お金持ちになることは人生の目的ではないことはわかると思います。それでは出世でしょうか。確かに高い立場に立って立派な仕事をしている人もたくさんいると思いますが、それが人生の最終的な目的なのかと言うとそうでもないように思います。私は人生の目的というのはお金持ちになることでもない、出世をすることでもない、「**しあわせ持ちになること**」こそ人生の目的だと思っています。

我々毎日生きているのは、幸せになるために生きているのです。毎日毎日の朝起きて、働いて、夜寝て、その繰り返しをしています。その繰り返しの中で向かっている方向は、我々幸せな人生に向かって進んでいるのだと思います。

<しあわせの六角形>

それではしあわせ持ちの人生というのはどのようなものだと思いますか。私はしあわせの六角形というお話をいつもしています。つまりしあわせになるための六つの要素です。

### しあわせの六角形～六つの富(ふ)





## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

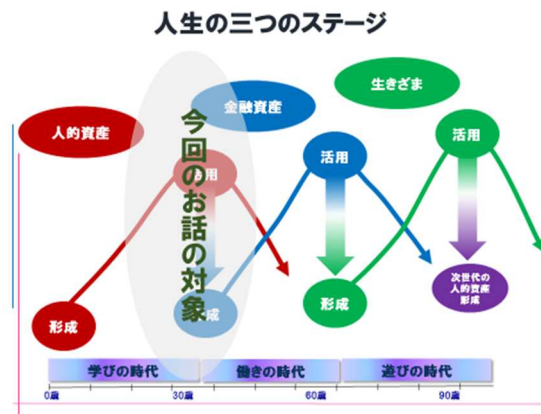
まず金融資産、これはファイナンシャル・アセットです。次が心と体の健康、フィットネスです。3番目が家族とか愛する存在、広義のファミリーと言っているかと思えます。4番目が友達とか交友関係、フレンドです。そして5番目がファン、趣味とか楽しみですね。そして最後がフィランソロピー、社会貢献です。

たまたま英語ではすべて「F」の音で始まっているので、私はこれを**六つの富(ふ)**と呼んでいます。このしあわせの六角形が、バランスが取れていて、外側に大きく広がっているほど幸せだということになります。

それでは仕事というのはこの六角形の中のどこにあたるのでしょうか。私は**仕事というのは、お金のためでもあります、同時に社会貢献でもあり、そしてそれが自分にとっての楽しみでもある**と考えます。つまりこの六角形の左半分が仕事だと考えています。

### <100年人生におけるヤング・アダルト時代>

最近では人生100年という話が良く出てきます。私は2007年に「100歳までの長期投資」という本を書きました。その時はみんなこのタイトルを笑っていたものです。でも今、本屋には100歳までの人生に関する本が山積みになっています。



私は100歳までの人生は三つのステージに分かれていると思います。それらは学びの時代、働きの時代、遊びの時代です。学びの時代というのは人的資産を形成する時代ですつまり、生まれ落ちてから、呼吸をすることを覚え、食べることを覚え、学校に行き、そして就職をする。仕事を始めても最初の10年ぐらいというのは勉強です。つまり、この時期、自分の能力を高めていく時代です。自分の世の中に貢献する力、そしてみんなから感謝され、感謝のしるしのお金を稼ぐ力、言い換えれば人的資産の形成期です。

第2期はその人的資産を活用する時代です。学びの時代に形成した人的資産を活用してそれを金融資産に変換して行く時代です。仕事を通じて社会貢献をし、生活者から感謝され、人々の感謝に裏付けされたお金を稼ぐ。

この時代に形成する金融資産は、もちろん働きの時代の生活のためであると同時に、次の遊びの時代の生活を支える糧でもあります。

そして遊びの時代に入ります。遊びといっても、決して家でゴロゴロ寝ていたり、銀座で豪遊をしたりするというものではありません。自分がしたいなと思っていることをしていると、それがそのまま世



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

の中の役に立つ、これが本当の意味での遊びです。この時代に金融資産を活用して、形成していくのが生き様です。

あのじいさんかっこいいな、ああいうおばあちゃんに私もなりたい、そのようなロールモデルを見せてあげるのです。その生き様がどういう風に活用されていくか。それは次の時代の人的資産の形成に活用されて行くのです

人生というのは面白いものだと思います。人生の三つのステージで人的資産、金融資産、生き様を形成して活用していくことによって、世代を超えてそれが繋がっていく、それが人生というものです。今日、私の話を聞いてくださる皆さんは、おそらくこのグリーンの部分、つまり学びの時代の後半から働きの時代の前半の方々ではないかと思います。今日はその時代を生きる上で知っておいていただきたいことをお話をします。これは私の遊びの時代のひとつの活動です。

### 課題① リタイア後のための資産形成

ヤング・アダルトの時代には2つの大きな課題があります。リタイア後のための資産形成、二番目が仕事を通じての社会貢献です。

まず、リタイア後のための資産形成のお話をします。

日本では残念なことに投資に対して誤ったイメージが根強くあります。大変残念なことではありません。それは多くの人が投資と投機を間違えて考えてしまっていることに大きな原因があります。

投機というのはサイコロの目を当てたり、コインの裏表を当てたりすること。つまり結果に法則性がなく、結果をコントロールする術もない。それが投機です。

投資は、ある程度、結果に法則性がある。そしてある程度、結果をコントロールすることができます。投資の中にも短期投資と長期投資があります。短期投資は価格を対象として売買によって収益を上げようというものです。

長期投資は企業を保有することによって、企業が成長するとともに、自分の資産も増やしていこうというものです。株主になるということは企業のオーナーになることです。自分が企業のオーナーとなり、企業を通して自分の資金を世の中のために活用してもらおう。そして、世の中から感謝され企業が受け取る感謝のしるし、つまり利益の一部が自分のもとに戻ってくる。それが本当の長期投資です。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

投資と似た言葉で資産運用という言葉もあります。かなりの専門家でもこの二つを混同して使っていますが、私は全く違った意味だと考えています。例えば 1000 円の株を 100 株 10 万円で買ったとします。5 年間保有をしていたら 1000 円の株が 1 万円になったとしましょう。つまり 10 倍になったわけです。長期投資としては大成功です。

でもそれであなたの生涯にわたるお金の問題が解決したかと言うと、そういうわけではありません。資産運用というのは長期投資を行うことで資産全体を安定的に管理していくことです。ですから英語ではこれをアセット・マネジメントと言います。資産全体にわたって、人生のライフプランに合わせて、それを管理しながらしあわせ持ちへの道を歩いていくこれが資産運用です。

資産運用にも資産形成と資産活用という二つのフェーズがあります。資産形成というのは、皆さんのように現在働いている人たちが、毎月の収入の一部を退職後のために備えて少しずつ安定的に増やしていこうという、これが資産形成です。資産活用というのは、収入よりも支出の方が恒常的に大きくなった人が、現在ある資産を賢く管理しながら対空飛行時間を伸ばしていく、これが資産活用です。皆さんは当然、資産運用の中の資産形成を考えるべき時期にあるということです。

<毎年の収入は今年的生活費と将来的生活費の両方の分>

資産形成を考える上で大変素晴らしい言葉があります。これは新進気鋭の行動経済学者ダン・アリエリーさんの言葉です。「**毎年の収入は今年的生活費と将来的生活費の両方の分**であることを知るべきです」、これは肝に銘じていただきたい言葉です。

例えば皆さんが月曜日から金曜日まで働いて、毎日、日当をもらおうとします。土曜と日曜は休息します。もし皆さんが月曜から金曜まで毎日もらう収入の全額をその日のうちに使っていたとしたら土日はどうなるでしょうか。週末にお金がなくなり生活に困ることは目に見えています。必要なことは月曜から金曜まで、毎日貰う収入の一部を土日のためにとっておくということです。人生についても同じような事が言えます。働き時代に受け取る給料の一部は、リタイア後のためにとっておかなければ遊びの時代に必ず困ることになります。

<資産形成の目的とは？>

このスライドを見てください。一番左側にあるブルーと黒の部分があなたの毎年の収入だとします。ブルーの部分で今の生活をします。黒の部分を将来のための備えとします。あなたが 30 歳だとして 65 歳まで働いたとします

36 年間あります。その間に生活費は上昇するでしょう。そうするとこの黒の部分の 36 年後の実質的な価値、つまり購買力は減ってしまっています。その結果どうなるかと言うと、今までこのブル



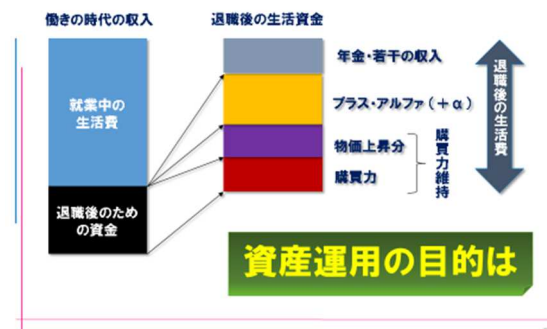


## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

一の部分で生活していたのが、急にこの赤の部分で生活をしなければならなくなるわけです。これはかなりの大幅な生活水準の低下です。

それでは物価水準並みに資産を増やしていったらどうでしょうか。赤の部分に紫が上乘せされます。確かに毎年取っておいたお金の価値は維持されていきます。購買力は維持されます。しかし、それでもブルーの部分で生活していたのが、急に赤と紫で生活をするということになれば、かなり生活の質の低下を招いてしまいます。やはり購買力を維持するよりも少し余分の収益を投資で稼いでいく必要があるのです。それがこの黄色の部分です。それに若干の年金とかあるいは収入を得ることで、就業中と同じような生活水準を維持していくことが可能となるのです。

### 生活の質を守るには……



このことからリタイア後のための**資産形成の目的**というのが明確にわかってきます。それは「**購買力の維持+アルファ**」の投資収益を得ていくということです。

### <シンプルな投資戦略>

それを実現するための投資戦略は非常にシンプルです。つまり、全世界の株式、これは日本、日本以外の先進国、そして新興国すべての主要企業の株式にまんべんなく投資をするということです。

なぜ、全世界なのか。それは我々の毎日の生活が全世界の企業によって支えられているからです。

我々の生活を成り立たせてくれている企業のオーナーになればいいのです。でも世界中の企業の株式に投資するのはとても難しいと思うかもしれません。ありがたいことに、今、それは非常に簡単にできます。

### シンプルな投資戦略



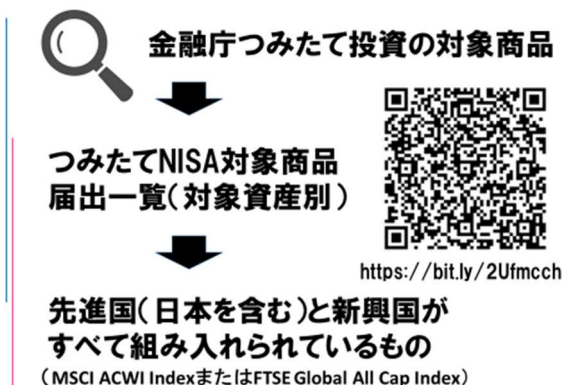
- 景気が良くなったり悪くなったりしつつも世界経済はゆっくりと成長をしている。
- 世界の名目成長（実質成長とデフレーター）≡企業の創造する付加価値＝投資リターンの源泉＝購買力の維持+アルファ＝資産運用の目標
- 我々の生活を支えてくれている世界中の民間企業の（間接的ではあるけれど）オーナーとなる



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

- 世界中の民間企業をひとまとめに一口 5000 円とか 1 万円で買えるのが世界株式のインデックス・ファンド

投資信託という言葉聞いたことがある方が多いと思います。ファンドと呼ばれることもあります。色々な種類がありますが、全世界株式インデックス投信という投資信託を買えばいいのです。金融庁の HP のなかの「つみたて NISA の対象商品」というページがあります。そのなかのつみたて NISA 対象商品届出一覧（対象資産別）を開き、単一指数（株式型）⇒海外型⇒MSCI ACWI Index または FTSE Global All Cap Index という項目の下にあるファンドを選べばいいのです。ひとつだけ注意が必要です。このリストのなかで「除く日本」というファンドは我々が一番お世話になっている国の株式を除くことになるので不十分です。あくまで日本も含めた全世界です。



© Kaz Okamoto, 2020. All rights reserved. Fiduciary and Independent Wealth Advisors, NPO I-O Wealth Advisors, Inc. 10

これらの投資信託は世界中の主要な企業を全て組み入れている投資信託です。数十か国の何千という企業の株式を組み入れているのです。そのような投資信託が、一口 5000 円ぐらいから十分に買うことができます。とにかくまずそのような投資信託の投資を始めればいだけす。事前に決めた金額を定期的に引き落とししてもらい、決めた投資信託を自動的に買ってもらう。その手続きさえしておけばあとは何もする必要はありません。すこしずつ余裕ができてきたら金額を増やしていけばその分、退職後が楽になるでしょう。

投資を始めるに際して重要なのは政府が提供してくれている税制優遇を活用するということです。つみたて NISA とかイデコなどという言葉聞いたことがあるかもしれません。どちらも、分配金や値上がり益が非課税になるという大変ありがたい制度です。たくさんの解説書やホームページなどに詳しくわかりやすい説明が出ているので是非調べてみてください。

ではどのようにそれを買っていけばいいのか。これも極めてシンプルです。つまり積立投資をすればいいのです。毎月出来る限りの金額を決めて、金融機関に積立投資の手続きをする。毎月同じ金額を投資するのです。これをドルコスト平均法といいます。いま、株が高いとか安いなどと考える必要はありません。どうせわからないのですから。タイミングは考えないでひたすら決まった日に決まった額を何十年も続ける。それだけです。これが実は最強の買い付けの仕方になるのです。

一定の金額を買っていくので投資信託の値段が高くなっているときは、当然、少なめの口数しか買えません。逆に投資信託の値段が非常に安い時、そういう時はたくさんの口数が買えます。このよ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

うにして高くなったら少なめに、安くなったら多めにという買い付けを何十年にもわたって続けられれば、かたまりとして非常にコストの安い資産が出来上がります。

投資の極意は「安く買って高く売ることだ」と言います。現実にはそれはそんなに簡単なものではありません。ただ、このように自動的に買い付けをしてくれるように手続きをしておけば、仮に株式市場が安いときでもしっかりと相場に惑わされることなく買い付けることが自然にできるのです。それは相場が回復したときに大きな含み益をもたらすことになります。

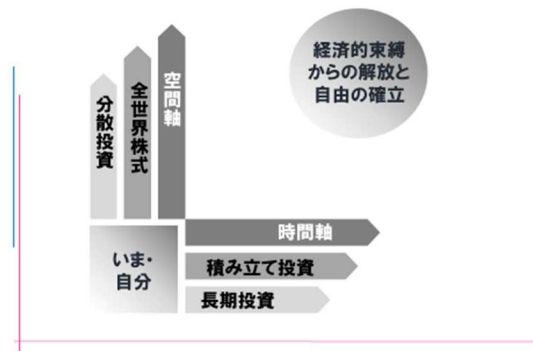
そして最後に一番重要なことを言います。それは、絶対に止めないということです。マーケットが暴落をしたりすると、とりあえず売っておいて、もっと安くなった時に買い戻せばいいと思ったりします。マーケットが高くなると、とりあえず売却をしておいて、安くなったら買い戻せばいいなどと思ってしまうものです。しかし、それは言葉で言うのは簡単ですが、現実には非常に難しいのです。安い時はみんな怖くなって買うことなどできません。また高くなればみんなもっと高くなるだろうと思って、さらに買ってしまふのが普通なのです。とにかく淡々と毎月一定の金額を積み立てていく、それが長期資産運用の極意です。

私は資産形成というのは歯磨きのようなものだといつも言っています。つまり、特別エキサイティングなものでもなければ、楽しいものでもない。でもそれをきちんとしておかないと、年を取った時に歯がなくなってしまうて困ったことになる。資産形成も全く同じで、ただひたすら、マーケットが上がろうが、下がろうが、ただ決めた通りにそれをずっと続けていくこと、それが大事なのです。

### <資産運用も意識の拡大が必要>

皆さんには意識の時間軸と空間軸を大いに広げてもらいたいのです。空間軸を広げるとはまさに意識を全世界に広げ最大限の**分散投資**をすることです。時間軸を広げるとは何十年もかけて何が起ころうとも**積み立て投資**による長期資産形成をする。これらを実行していくことで経済的束縛からの解放と自由の確立が得られるのです。

### 将来の自分は今の自分が支える



## 課題② プロとしての仕事を通じての社会貢献

### <プロとしてもっとも必要なのは倫理観>



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

次のテーマに移ります。働くということ、仕事ということです。みなさんに本当に求められているのは「プロ」として世の中に貢献する働き方をさせていただきたいということです。

本当のプロとして、世の中に貢献をするために、私は三つの要素があると考えています。一つは知識、これは当然です。2番目が経験、これは徐々に働きの時代の中で積み上げて行くものです。ただこれらの知識や経験のさらに基本にある最も大事なことがあります。それは「**プロとしての倫理観**」です。

自分が所属する職業の社会的な地位が向上し、自分たちの仕事がみんなから喜ばれ、尊敬されるような職業になっていくこと、これがプロの使命なのです。私は「職業」と言っていて「会社」とは言いません。会社は皆さんが自分のプロとしての能力を発揮するための場所です。重要なのは皆さん個人のプロとしての能力なのです。

プロとしての行動規範というものがあります。もちろん違法行為をしてはまったく問題になりません。ただし法律に違反しないだけでなく、プロとしての**倫理観と行動規範に基づく業務遂行するのが本当のプロ**です。言い換えればたとえ、組織の命令であっても法律違反、プロとしての倫理基準や行動規範に反する仕事はするべきではないということです。もちろん独りよがりになってはいけません。上司などと十分に話あうことは絶対に必要です。プロ意識は日本に昔からある職人の考え方と似ているようにも思います。

### <会社・組織は生活者の願いをかなえる手段>

皆さんは会社に入ると言うとなんか会社という大きなビルがあって、そこに社長がいて、役員がいて、部長や課長がいて、そこに自分が入って行って、仕事をするというイメージを持つかもしれませんが。しかし、会社というのは生活者によって成り立っているのです。**生活者総体として「こういう世の中になってほしい」という願いを実現するために組成されているのが会社**です。そのような組織を支えているのが、一つは消費者であり、会社の従業員であり、そして資本の出し手、つまり株主です。

消費者も従業員も株主も全て生活者です。消費者はコンシューマー、従業員はエンプロイ、そして株主は資本のオーナーです。ですから、私は生活者こそ会社の CEO だと言っています。生活者は、その会社を通じて自分が望むような良い世の中を創造して欲しいと考えているわけです。その生活者の期待に応えることこそがプロとしての仕事です。皆さんは会社などの組織に所属することになっても、常にそのことを忘れないでもらいたいと思っています。





## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

<新「三方よし」の世界>

それでは、皆さんがこれから創造して行こうと言う良い世の中というのは、一体どういうものでしょう。江戸時代の近江商人は「三方よし」つまり、売り手よし、買い手よし、世間よしということをととても大切にしてきました。私は今日の三方よしは、命よし、未来よし、地球よしであると思っています。

先ほど、意識の拡大の話をしました。仕事にもそれは当てはまります。みんなのため、そして、未来のため、時間軸を広げて世の中のために貢献する。それが仕事というものです。**和には加えるという意味と調和するという二つの意味があります。**意識の拡大により多様性と調和に基づく「和の世界」が実現します。それを創造するのは一人一人の生活者です。そして皆さんもその生活者の一人です。

お金の事を学んでいくと、我々は皆「ご縁のネットワークの中に住んでいる」ということがよくわかります。「投資とは時間をどう使うか」ということです。時間をどう使うかということは、まさにどう生きるかということにつながります

つまり、お金と投資の事を深く考えることによって、「**ご縁のネットワークの中でどのように生きていくべきか**」ということに気づくのです。どうぞ皆さんも本当に世の中のためになる仕事をして、お金を稼ぎ、そのお金を世の中のために使うと同時に、自分の退職後のために備えることでしあわせ持ちの人生を送っていただきたいと思います。

(本稿は金融庁で行った岡本和久の講演内容を加筆修正したものです)